

1203

第一號

至急



受許
件名
二十人相米揚子
名
大七
名
大七

査

次官

高級副官



主務副官



主務副官



参事官

主務局長



主務課長



主務課長



昭和八年九月八日

主務局長



主務課長



大官
出領

昭和八年八月六日

大官

大臣
出領

昭和八年八月六日

大臣

了結

昭和八年十月四日

了結

主務課長

主務課長

以回号案

鎮海傳へ送付する年林八町米稻俣砲
 台門及新島砲台具材料の一時概費
 送付する年俵俵中二五八俵中一
 以回會より取らるる所を以て具材料
 才概費におきぬ前上徳ノサレモノヲ除き
 送付する年と致さるる在る砲台材料ハ
 臨時の概費傳書へ引充えし中の一
 世より已に相合に修費ハ送付書より
 為俵丸ト以ての概費送付書より
 為俵丸ト以ての概費送付書より

本号一

九月廿七日

通條葉

以友手大印字舟陸四也、
 深味中二三五八傳中一ツ以テ貴經長ヨ
 リ常大也、以思言事取山去、依しハ大
 連傳引亮ノ二十八冊東極傳記ヲ能
 海傳ハ送旨致意云ト有レ其行代
 抄ハ今多的田抄ノ結果又連傳ハハ未
 何レノ記體ヲ引亮ツレトモ定定ニ致
 其旨抄極少子也、大和嘉成也

本号ニ

九月廿七日

号毛の長、少くは

二十八海求極彈砲より更に極短方面にお

あるし、右より通るは、計り

一、二十八海求極彈砲 台門

場急費才一三七九千(換算)

一、全 彈 業 千二百費

全(引)の分、但し、延敷、装金、ラ、不、際、多

大、段、砲、号、上、局、に、区、存、し、千、作、業、了、り、先、後

要、の、区、存、す、し

一、全 物、段、砲、用、鉄、具、及、材、料 台、門、分

第四、段、の、薬、材、引、金、の、分

一 砲台器具及村警器具

分隊甲より直に東京湾へ砲台を修め
 ありて砲台を修めし情状を
 一三七九より修り東京湾より直に
 分して日地を修めせんも、及其處を
 修めし引免テ乙修り直に修めし
 付るべし

如給送分の付る、運給通分、古友家
 上打のく己、古友家、臨時、軍事費支
 年トシ会計、此持額、請求るべし

九月廿七日

大坂記兵工廠控理、少七世業

三十八兩米相傳記陸海兵費 千二百兩

力、兵部本局の事、丁区、百七、才、糸、里、記
多上、遊、館、禁、事、り、不、際、中、受、兵、部、本、局、の、
引、取、不、已

但し、如費、ハ、修、の、軍、子、費、ヲ、任、辨、力、取
計、ハ、之、ノ、才、糸、口、局、ノ、決、算、不、已

其、事、情、亦、多、ク、令、各、事、七、世、業

少、年、ノ、通、年、ノ、事、情、付、附、的、返、却、不、已

大坂記兵工廠控理、少七世業

千二百兩



了里傳案

之為其... 乃申... 亦七... 送...

九月廿三號

本件... 10000...

本件... 見...

陸軍省

1210

兵部

品目

頁

教

砲台鏡

三

爲計算尺

三

水車機

三

測繪器

一

携帶式

一

西臺火藥罐

一〇〇

要臺火藥箱

一〇〇

彈履

一〇〇

臺運彈車

六

兵部

準備版用

兵部

豫備交換品	一
字金燈	一二
ボウノ遊秤	一
要砵名用	三
塞 <small>此家業補綴所用</small>	三
工 <small>炸藥房所用</small>	三
具砵床用	六
<small>洋算子</small> 算子毀工具	一
砵名西女具稿	三
退却機箱	二

品目	数量	品目	数量	品目	数量	品目	数量	品目	数量
重送押車	六	豫備交換品	一	安全燈	九	砲名用	三	装薬筒製用	三
						火口	三	炸薬填実所用	三
						砲名用	六		
						砲名用	一		

筆撮版用

東洋海軍省
只番車庫

軍省



1213

陸軍省 密書 第三七七七号

大本 謀略 第三五八号

明治三十七年九月廿四日

參謀總長 侯爵 山縣 有朋

武官 山縣 有朋 殿



方之 通海 別軍 兵官 中 決
 冊 知 福 學 他 六 門 及 之 一 要 免 材 中
 一 切 之 一 部 旅 順 之 送 附 送 附 又 彈 中
 葉 六 差 為 一 川 二 百 餘 宛 同 時 送 附 事
 付 已 矣 後 一 門 四 百 餘 宛 送 附 事

大本 書



11/9
5/14

時心乃且全也

此言銘山傳の謀略一七一二年
以今抄紙の身大連傳の丁宛ニ共
桐原院ノ送付ノ事、百令中傳

ナ
本
巻

電報九月五日
十月五日
閣

夫少禮也
道也
信也
官

方之軍中、三千、八冊志
增加ノ必要アリ迅速ノ方法ヲ以テ
増加ノ必要アリ迅速ノ方法ヲ以テ

二六
二六
二六